# ICTにより健康・快適を実現する市民参加型スマートシティ実行計画（札幌市）

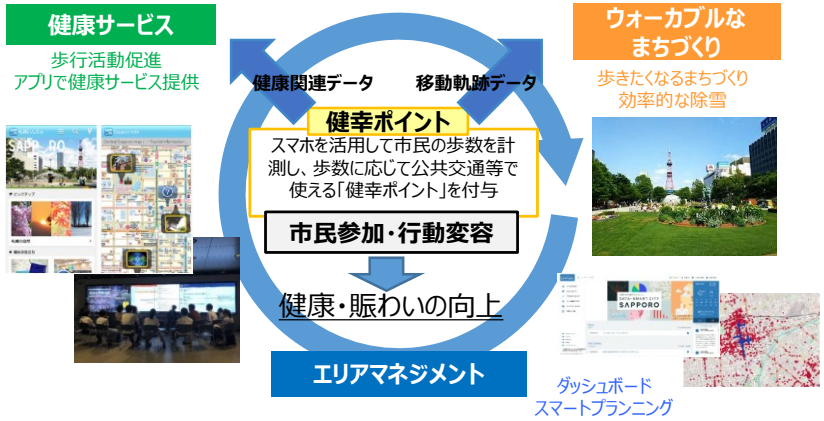
健康寿命が全国平均を下回り、政令市の中でも下位に位置している現状に対し、市民参加型のスマートシティにより健康と賑わいの向上を目指す。

## 目標

- 健康指標：
  平均歩行時間　約20分／日の増加（約30%増）（2024年）
- 賑わい指標：
  観光消費額　7000億円／年（約20%増）（2024年）

## 取組概要

健幸ポイント等のインセンティブにより行動変容を促すとともに、移動や健康のビッグデータを取得し、まちづくり・健康サービスに活用




## 体制

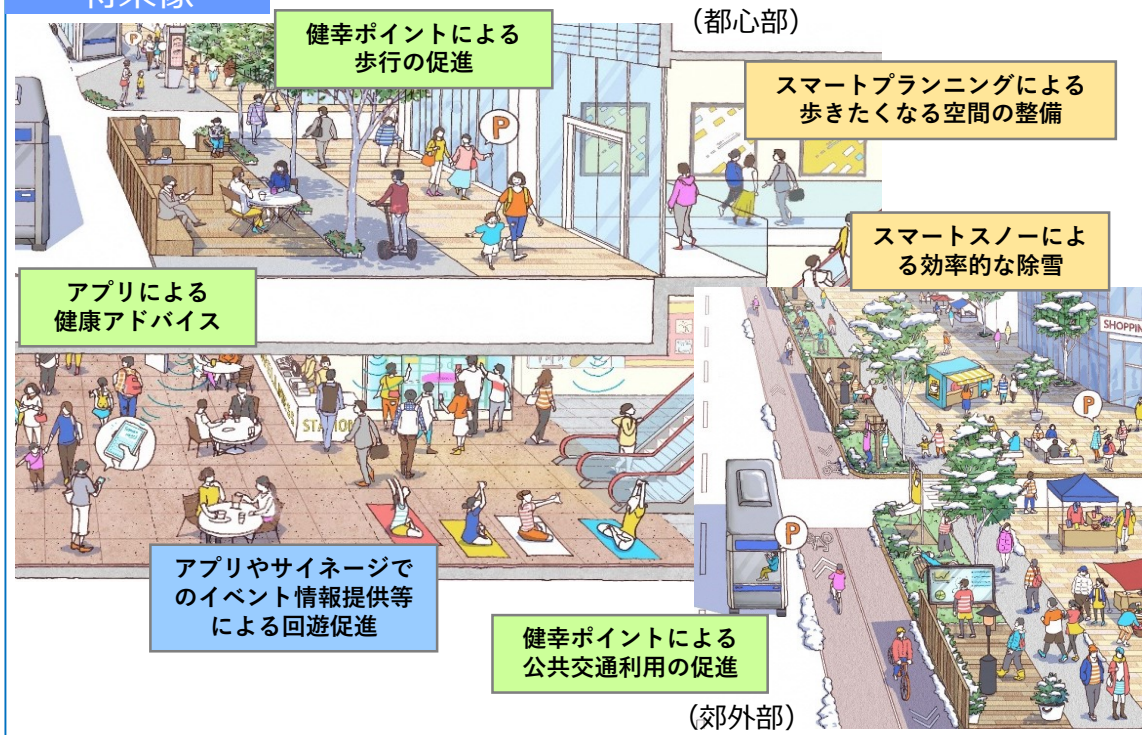
**行政**
- 札幌市
  （統括、都市施策・保健施策との連携調整）

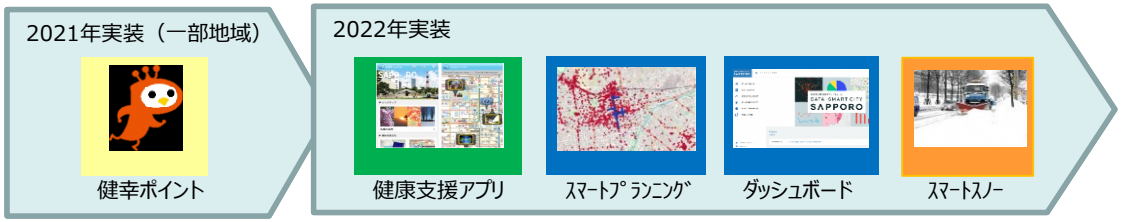
**公益法人**
- 一般財団法人さっぽろ産業振興財団
  （プラットフォーム運営）

**有識者**
- 筑波大 久野教授（政策指導）
- 札幌市立大学 高橋尚人 特任准教授（政策指導）

**民間企業**
- 日建設計総合研究所（統括、スマート・プランニング）
- つくばウェルネスリサーチ（健幸ポイント、施策見える化）
- イオン北海道（健幸ポイント支援）
- 戸田建設（スマートスノー）
- トーマツ（人流データ分析支援）
- タニタヘルスリンク（健康データ管理）
- フェリカポケットマーケティング（システム開発・提供）

## 将来像




## スケジュール